れたことの結果である。ホザキイチョウランの場合、腊葉では花柄だけのねじれのように見えた。本種は Microstylis として邦書には出ているが、命名規約上 Malaxis とせねばならない。此の場合にヤチランを別属に扱うなら Hammarbya paludosa O. Kuntze とすべきである。 (東京都立大学牧野標本館)

Malaxis monophyllos Sw. var. brachypoda Morris et Eames, with lips lowermost in the flowers and chiefly with northeastern N. American range, occurs in Japan. It has already been stated by D.S. Correll (Native Orchids of N. America 260, 1950) only citing "Japan" in the geographical range of the variety, and in fact the plants I examined in TI and MAK revealed roughly the ratio of 1 (var. brachypoda): 2 (var. monophyllos) in frequency. Both the varieties are seen in one and the same locality. Moreover the var. brachypoda occurs also in Formosa as Microstylis arisanensis Hay., and on Mt. Omei, Szechwan prov. of China (Jul. 1910, Yamatsuta, TI). Are they a fossil areas of the Tertiary glaciations?

新刊紹介

□R. Hegnauer: Chemotaxonomie der Pflanzen—Eine Übersicht über die Verbreitung und die systematische Bedeutung der Pflanzenstoffe. Band 4: Dicotyledoneae: Daphniphyllaceae-Lythraceae. 1966. SS. 1–551. Birkhäuser, Basel/Stuttgart. sFr. 106.-(邦貨 1 万 600 円) Hegnauer 教授の "Chemotaxonomie" の第 4 巻が昨年出版された。第 1, 2 巻は本紹介者により,第 3 巻は久内先生により何れも本誌に紹介された。この第 4 巻では,第 3 巻と同様,科の排列はアルファベット順で,双子葉植物のユズリハ科からミソハギ科までが扱われ,最後に 1965 年 10 月 30 日に完成したと言う 58 頁におよぶ補遺がついている。最近の Chemical plant taxonomy の進歩にともない,分類学のモノグラフにも大分植物成分の説明がとり入れられるようになったが,化学・薬学のバック・ナンバーの揃っていない分類学の教室においては不可欠の好参考書といえよう。

□Willis, J. C. A dictionary of the flowering plants plants and ferns, ed. 7 revised by H. K. Airy Shaw (改版顕花植物及びシグ類名鑑) pp. 1214+53, Cambridge University Press (1966). 属名を確かめるのに手頃であった前版は 1931 年版でそれも追加リストが後にある程度の補充であったが,これは思い切り増補を行ったもので全く面目を一新している。属を ABC 順に,種数と分布地を附記し,注目すべきものには記述もある。(これは前版の通り)。異名も徹底して拾い,その際,完全な異名は=で,分類の見解によるのは~で示すのも便利である。園芸的に作られた属間雑種もよくひろってある。科は相当細かく拾い,しかも記載がある。しかしタケ科 Bambusaceae Nakaiは記載があり独立しているが,コウヤマキ科 Sciadopityaceae J. Doyle はあっさり異名にされているなどやはり傾きがあるけれども,中井先生が作られた新科が相当に受け入れられているのは改訂者の考え方がわかって興味がある。なお旧版にあった英名や用語解説は尨大になるのを防いで削除されたから,旧版は旧版なりに有効である。\$18.50

(前川文夫)